

注3

大学番号：私066

[平成26年度設置]

計画の区分：研究科の専攻に係る課程の変更

注1

認可

東京基督教大学大学院 神学研究科 神学専攻 (D)

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東京キリスト教学園
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 学長室

職名・氏名 シツチョウボサ 室長補佐 タカハシ 高橋 ノブキ 信希

電話番号 0476-46-1131

(夜間) 0476-46-1131

F A X 0476-46-1405

e-mail nobuki@tci.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

神学研究科

<神学専攻（D）>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	7
4. 既設大学等の状況	8
5. 教員組織の状況	9
6. 留意事項等に対する履行状況等	11
7. その他全般的事項	14

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東京キリスト教学園

(2) 大学名

東京基督教大学大学院

(3) 大学の位置

〒270-1347
千葉県印西市内野三丁目301番5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長	(ヒロセ カオル) 廣瀬 薫 (平成24年5月)		
学長	(クラサワ マサノリ) 倉沢 正則 (平成18年4月)	(コバヤシ タカノリ) 小林 高德 (平成26年4月)	任期満了による交代のため (26)
研究科委員長	(ヤマグチ ヨウイチ) 山口 陽一 (平成24年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の博士後期課程の場合(平成27年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
神学研究科神学専攻(D)博士(神学)	3年	2人	6人	基礎となる学部等 神学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	2 (-) []	人 人	2 (-) []	人 人	2 (-) []	人 人			1.50	—	
志願者数	5 (5) [1]	0 (0) [0]	2 (2) [0]	0 (0) [0]							
受験者数	5 (5) [1]	0 (0) [0]	2 (2) [0]	0 (0) [0]							
合格者数	4 (4) [1]	0 (0) [0]	2 (2) [0]	0 (0) [0]							
B 入学者数	4 (4) [1]	0 (0) [0]	2 (2) [0]	0 (0) [0]							
入学定員超過率 B/A	2		1								

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[1] (—) 4	[0] (—) 0	[0] (—) 2	[0] (—) 0	/		
2年次	/		[1] (—) 4	[0] (—) 0			
3年次			/		/		
計	[1] (—) 4						

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	4人	0人	平成26年度	0人	0人		0%
			平成27年度	0人	0人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	2人	0人	平成27年度	0人	0人		0%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
合計	6人	0人					0%

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<神学研究科 神学専攻 (D) >

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎領域	神学特論	1① 1②	2	0	0	5	1	0	0	0	秋入学者が不在のため開講の必要がなくなったため閉講。 次年度は開講予定。(26) 秋入学者がなく開講の必要がなくなったため閉講。(27)
専門領域	研究指導	1~3通	12	0	0	6	0	0	0	0	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 0	科目 0	科目 2	科目 2 [0]	科目 0 [0]	科目 0 [0]	科目 2 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
 ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	35,493.94 m ²	0 m ²	0 m ²	35,493.94 m ²				
	運 動 場 用 地	23,432.50 m ²	0 m ²	0 m ²	23,432.50 m ²				
	小 計	58,926.44 m ²	0 m ²	0 m ²	58,926.44 m ²				
	そ の 他	19,123.00 m ²	0 m ²	0 m ²	19,123.00 m ²				
	合 計	78,049.44 m ²	0 m ²	0 m ²	78,049.44 m ²				
(2) 校 舎	専 用	6,248.84 m ²	0 m ²	0 m ²	6,248.84 m ²	大学全体			
	(6,248.84 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(6,248.84 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	14室	5室	3室	2室 (補助職員 1人)	0室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		博士後期課程			
	神学研究科神学専攻博士後期課程			6 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	教育研究環境向上のため 予定より増冊したため (26) 大学全体での共用分図 書56,000冊学術雑誌 580種	
	神学研究科 神学専攻 博士後期課程	48,900 [34,900] (51,963 [38,366]) (47,700 [34,300])	406 [260] (405 [258]) (392 [250])	25 [25] (25 [25])	640 (610)	0 (0)	0 (0)		
	計	48,900 [34,900] (51,963 [38,366]) (47,700 [34,300])	406 [260] (405 [258]) (392 [250])	25 [25] (25 [25])	640 (610)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	1,085.08 m ²		48席		120,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	767.85 m ²		なし						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教育研究環境向上のため 予定より増冊したため (26)	
		教員1人当り研究費等	362千円	362千円	図書購入費	7,300千円 6,000千円	7,500千円 6,000千円		6,000千円
		共同研究費等	800千円	800千円	設備購入費	0千円	0千円		0千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。	
		1,020千円	810千円	810千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、寄付金収入、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東京基督教大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
神学部	年	人	年次 人	人		倍			
	4	33	3年次 12	160	—	0.85	平成2年	印西市内野3丁目301番5	
神学科	4	17	3年次 12	88	学士（神学）	1.11	平成2年	同上	
国際キリスト教福祉学科	4	16	0	72	—	0.63	平成20年	同上	
国際キリスト教専攻	4	8	0	36	学士（国際キリスト教）	0.92	平成20年	同上	
キリスト教福祉学専攻	4	8	0	36	学士（キリスト教福祉学）	0.33	平成20年	同上	
大学の名称	東京基督教大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
神学研究科神学専攻			年次 人	人		倍			
博士前期課程	2	18	—	36	修士（神学）	0.92	平成24年	印西市内野3丁目301番5	
博士後期課程	3	2	—	6	博士（神学）	1.50	平成26年	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<神学研究科 神学専攻(D)>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	Stephen Franklin (69)	平成26年4月	神学特論※ 研究指導						
専	教授	稲垣 久和 (66)	平成26年4月	神学特論※ 研究指導						
専	教授	木内 伸嘉 (61)	平成26年4月	神学特論※ 研究指導						
専	教授	小林 高德 (58)	平成26年4月	研究指導						
専	教授	伊藤 明生 (56)	平成26年4月	神学特論※ 研究指導						
専	教授	岡村 直樹 (52)	平成26年4月	神学特論※ 研究指導						
専 准教授		John Randall Short (44)	平成26年4月	神学特論※	専 教授	John Randall Short (45)	平成26年4月	神学特論※		教授昇格(27)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画						年齢構成(前年度の状況)		
研究指導教員	研究指導補助教員	計		研究指導補助教員	計	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
6	0	6						
(6)	0	(6)		[]	[]	2名	63歳	2名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1			「該当なし」
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年4月)</p>	<p>本博士後期課程の必要性、及び養成人材像として掲げる「東アジアにおける神学の教育研究の一拠点となるヴィジョン」、「グローバル化し複雑化する教会と社会の神学上の諸課題について提言し新しい未来の構築に貢献できる高度な専門性と研究能力を持った指導者の養成」が具現化されるよう、本学が計画している取組を着実に実行するとともに内容の充実に努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>設置の趣旨・目的等が具現化されるよう、本学が設置計画している取組を着実に実行するとともに、全学をあげ大学院の教育研究活動の更なる内容の充実、水準向上に努めている。(26)</p> <p>引き続き設置の趣旨・目的等が具現化されるよう、本学が設置計画している取組を着実に実行するとともに、全学をあげ大学院の教育研究活動の更なる内容の充実、水準向上に努めている。(27)</p> <p>「該当なし」</p>
<p>設 置 時 (平成26年4月)</p>	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>神学・教会領域の研究指導教員(69歳)の後任教員を、2015年4月より受け入れるべく準備を進めている。また神学・教会領域の教員(55歳)の資格審査を実施し、2014年4月より修士課程の研究指導教員を始めた。合わせて聖書学領域(旧約学分野)の教員(44歳)についても資格審査を行い、2014年4月より修士課程での研究指導を始めた。(26)</p> <p>神学研究科神学専攻のうち神学・教会領域を担当する専任教員(70歳)の後任者を受け入れるべく、公募を2回行った(2014年6月、9月)。その結果、米国の神学大学院における教育歴のある教員(35歳)を2015年8月付にて採用する。</p> <p>教員組織編成の将来構想に関しては、前回の報告(2014年5月)に加え、神学・教会領域の将来の博士後期課程への研究指導教員候補者として、若手教員2名(何れも30歳台後半)を修士課程の科目担当教員として2015年4月より配置した。(27)</p> <p>「該当なし」</p>

<p>設置計画履行状況</p> <p>調査時</p> <p>(平成27年2月)</p>	<p>神学研究科神学専攻(D)において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>神学研究科神学専攻のうち神学・教会領域を担当する専任教員(69歳)の後任者を受け入れるべく、公募を2回行った(2014年6月、9月)。その結果、米国の神学大学院における教育歴のある教員(35歳)を2015年8月付にて採用する。</p> <p>教員組織編制の将来構想に関しては、前回の報告(2014年5月)に加え、神学・教会領域の将来の博士後期課程への研究指導教員候補者として、若手教員2名(何れも30歳台後半)を修士課程の科目担当教員として2015年4月より配置する。(26)</p> <p>神学研究科神学専攻のうち神学・教会領域を担当する専任教員(70歳)の後任者を受け入れるべく、公募を2回行った(2014年6月、9月)。その結果、米国の神学大学院における教育歴のある教員(35歳)を2015年8月付にて採用する。</p> <p>教員組織編制の将来構想に関しては、前回の報告(2014年5月)に加え、神学・教会領域の将来の博士後期課程への研究指導教員候補者として、若手教員2名(何れも30歳台後半)を修士課程の科目担当教員として2015年4月より配置した。(27)</p>	<p>「該当なし」</p>
<p>設置計画履行状況</p> <p>調査時</p> <p>(平成27年2月)</p>	<p>既設学部等(神学部国際キリスト教福祉学科)の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>近年の入学定員未充足の現況に鑑み、2014年度より、神学部国際キリスト教福祉学科の入学定員を20名から16名へ変更する届出を行った。合わせて引き続き入学定員充足を目指し、全学を挙げて学生募集に取り組んできている。</p> <p>2014年度、神学部国際キリスト教福祉学科は15名(入学定員16名)の入学者を迎えた。(26)</p> <p>2015年度、神学部国際キリスト教福祉学科は8名(入学定員16名)の入学者を迎えた。(27)</p>	<p>特に国際キリスト教福祉学科に重点を当て全学を挙げた組織的な学生募集活動を行っている。同時に更なる入学定員の見直しについて、検討している。(27)</p>

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<神学研究科 神学専攻（D）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	「該当なし」

- （注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

神学部長を長とし、神学研究科委員長を含む教員7名でFD委員会を構成している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

定例会を年1～2ヶ月に1回程度開催している（平成26年度実績：7回）。

c 委員会の審議事項等

- （1）FD活動の企画立案および実施に関すること。
- （2）FD活動に関する報告作成、評価に関すること。
- （3）FD活動に関する情報の収集と提供。
- （4）その他、FD活動の推進に関すること。

② 実施状況

a. 実施内容

- ・ 教員を対象とした研修会・フォーラム、ワークショップを毎年実施している。
- ・ 教員相互の授業評価・講評会を実施している。
- ・ 各教員についてアカデミック・ポートフォリオを4部門（教育・研究・大学運営・社会貢献）について収集し、ホームページにて公表している。
- ・ FD活動報告書を毎年作成し、公表している。
- ・ 学外で行われるFD活動に関する研修会に教員を参加させている。

b. 実施方法

FD委員会が中心となって企画立案し、教務部をはじめとする各部署との協力体制のもとに実施している。

c. 開催状況

夏期に行われている教員研修会は開学以来の伝統であり、その他の事業も多くの教員が参加し、その協力を得て活発に行われている。平成26年度は、8月27日に「グローバル化の中での教育の質の向上」と題しフォーラムを実施した（出席者：29名）。

d. 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価アンケート、教員による授業相互評価に基づき、FD委員会による検証と講評を行っている。また学部長による面談にてアドバイス等を行っている。上記を受け、各教員は、ポートフォリオにおいて自己点検・評価を行い、目標到達度を確認した上で改善点を設定し、シラバスの作成や授業を行い、改善に努めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

大学院を含む全授業科目において実施した。

平成26年度実施時期：春学期6/27-7/11、秋学期11/10-11/28、冬学期2/26-3/13

b 教員や学生への公開状況，方法等

教務部窓口においてアンケート結果を閲覧できる。

教員へはアンケート結果を返却する際、学生へはアンケート実施時に公開の旨周知している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学院設置認可以降、入試選考に至る開設準備については、新たに選考された研究科委員長を中心として、研究科委員会により滞りなく実施された。現在、自己点検・評価についても、大学自己点検評価委員会との協力のもと、設置の趣旨の実現状況等を中心に、研究科委員会において実施し、報告書を公にする予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成27年5月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ(平成27年8月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

記入例)

・平成27年度に評価機関(大学基準協会)の評価を受ける予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有) ・ (無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成27年7月1日)

改善意見等に対する改善状況等報告書

大学名： 東京基督教大学

①AC対象学部等名

認可・届出の別	開設年度	学部名称等	学科名称等	専攻名称等
認可	H26	大学院神学研究科	神学専攻(D)	—

②改善意見等に対する改善状況及び改善計画

	意見	現時点での状況	改善状況	今後の改善計画
1	神学研究科神学専攻(D)において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見 対応中	神学研究科神学専攻のうち神学・教会領域を担当する専任教員(69歳)の後任者を受け入れるべく、公募を2回行った(2014年6月、9月)。その結果、米国の神学大学院における教育歴のある教員(35歳)を2015年8月付にて採用する。 教員組織編制の将来構想に関しては、前回の報告(2014年5月)に加え、神学・教会領域の将来の博士後期課程への研究指導教員候補者として、若手教員2名(何れも30歳台後半)を修士課程の科目担当教員として2015年4月より配置する。	今後、後任となった教員のAC教員審査に向けて準備を進める。また、将来構想に関しては、学園運営会議において大学全体・学部・研究科を通して総合的に検討を続ける。
2	既設学部等(神学部国際キリスト教福祉学科)の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見 対応中	近年の入学定員未充足の現況に鑑み、2014年度より、神学部国際キリスト教福祉学科の入学定員を20名から16名へ変更する届出を行った。合わせて引き続き入学定員充足を目指し、全学を挙げて学生募集に取り組んできている。 2014年度、神学部国際キリスト教福祉学科は15名(入学定員16名)の入学者を迎えた。2015年度については、前年に比べ減少する見込みだが、神学科を含めた学部全体では入学定員をほぼ満たす見込みである。	今後も入学定員管理を適切にすべく検討を続けるとともに、左記の状況に鑑み、入学時に学部単位で選考を行うことについても検討を開始する。